

# 商店街通り

現在の商店街の町割は、江戸初期に計画され、細長い短冊形の敷地が、小さな排水路で区画されている。母屋は奥にあり、通りに面した店舗は、一階が売り場、二階が倉庫となっている。かつて火事が多かった北条では、耐火性のある土蔵造りの店舗が多く建てられた。現在、4つの国登録有形文化財がある(★印)。



宮本家のレジスター

昭和三十年代まで醤油醸造販売を行っていた。屋号は宮清(みやせ)。店舗は江戸末期の弘化四年(1847年)の建築で、木製のシャッターになる戸や防火用の土戸がある。国登録有形文化財。大正時代のレジスターなど貴重な道具も現存する。イベント時に公開され、敷地内にある江戸後期に建てられた穀物蔵を改装した「宮清大蔵」で室内菜のコンサートなども行われる。



★宮本家店蔵

昭和三十年代まで醤油醸造販売を行っていた。屋号は宮清(みやせ)。店舗は江戸末期の弘化四年(1847年)の建築で、木製のシャッターになる戸や防火用の土戸がある。国登録有形文化財。大正時代のレジスターなど貴重な道具も現存する。イベント時に公開され、敷地内にある江戸後期に建てられた穀物蔵を改装した「宮清大蔵」で室内菜のコンサートなども行われる。



★カフエポستن(旧常陸北条郵便局)

現在、石油類を扱っているが、江戸時代は油屋。文化十年(1813年)に北条で初めて店舗がつけられた。

## 井上善兵衛店蔵

現在、石油類を扱っているが、江戸時代は油屋。文化十年(1813年)に北条で初めて店舗がつけられた。

元ふるい屋の商家を改修して作られた、筑波大学芸術専門学群が開講する「大学を開くアートデザインプロジェクト」の拠点。学生団体「チームふるい」が地域の大人と子どもをつなぐイベントを企画していた。現在は民家。

郎氏により建設された豪邸を、平成十二年よりNPO法人「矢中の杜」の守り人が保存活用している。和風建築に近代的な手法が反映され、昭和の調度品が多く残る居住棟や贅沢なデザインの迎賓館がある。一般公開日は、毎週土曜日の十一時～十三時、十五時より。邸宅維持修繕協力金として500円。

大正時代から昭和三十七年(1962年)まで北条の郵便局であった。現在はカフエポستنとして営業。十一時～十八時、火曜定休。 <http://cafe-posten.com/>



★カフエポستن(旧常陸北条郵便局)



八坂神社(やさかじんじや)

江戸初期に作られた北条の氏神様。小高い丘(説には古墳)の上にある。御神体は牛頭天王像で江戸初期の作。七月下旬の祇園祭は、各町内社を祈るもので、八坂神社をさんで、東の市の神10もある。

つくば道の道標 高さ30cmの 県内最大級の道標。つくば道は、寛永三年(1626年)に、三代將軍徳川家光が筑波山の中禅寺(現在の筑波山神社)を改修する建材を運ぶために拡充した道で、後に参詣道として整備される。現在の道標は寛政十年(1798年)に再建。西の市の神(いちのかみ)

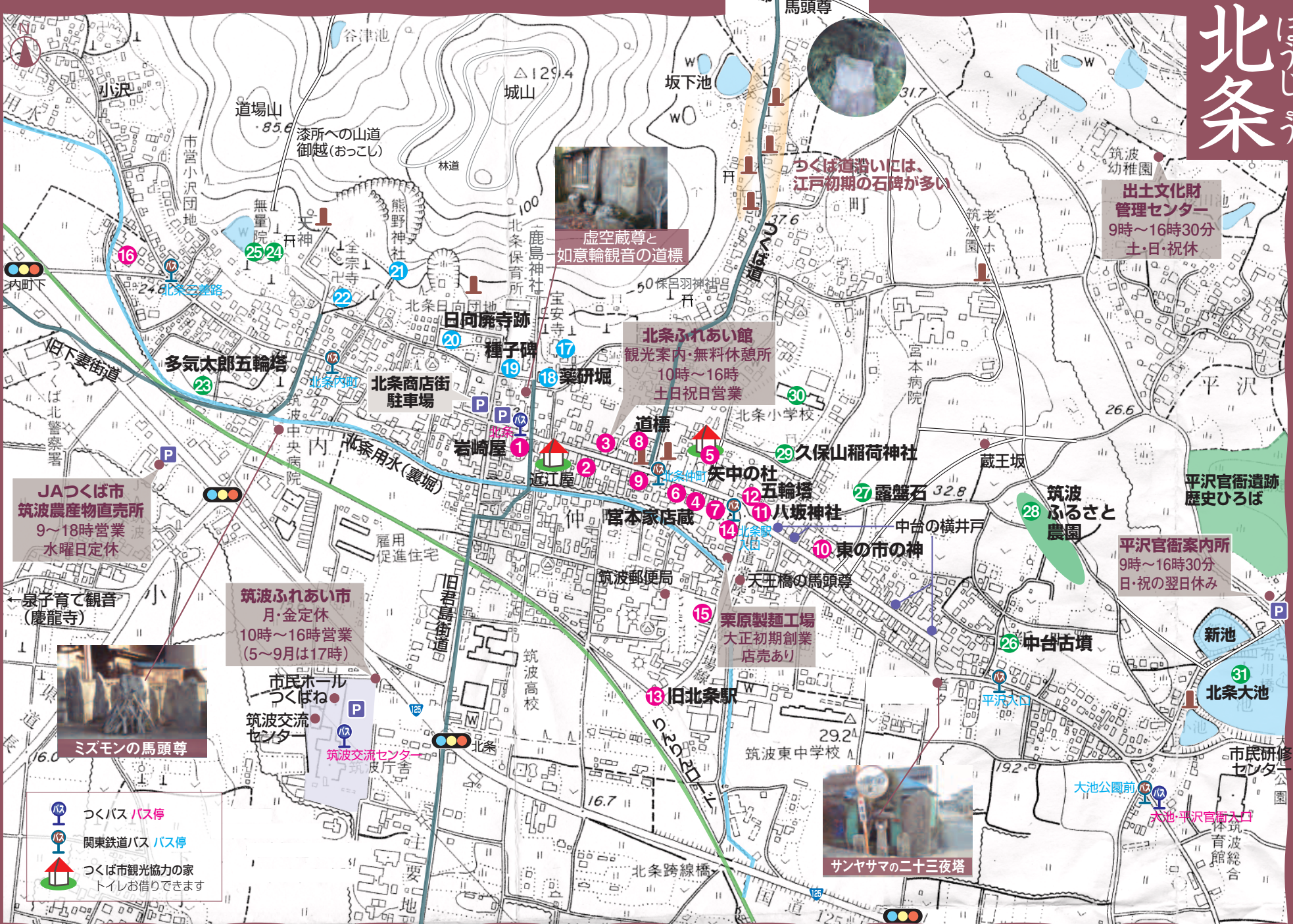
北条では、江戸時代から定期市(六斎市)が開かれ、現在の商店街が形成されるもとなつた。この祠は、市の無事を祈るもので、八坂神社をさんで、東の市の神10もある。

からの神輿・山車、大きな獅子籠が出で、盛大に行われる。この塔の地輪の孔から見つかった経筒には、天文六年(1537年)造立とあり、年号が分かるものでは県内二番目に古く、北条の地名が記されていた。明治の廃仏毀釈(きしゃく)の際に移設された。県指定文化財。



五輪塔(ごりんとう)

# 北条



出土文化財管理センター 9時～16時30分 土・日・祝休

北条ふれあい館 観光案内・無料休憩所 10時～16時 土日祝日営業

平沢官衙案内所 9時～16時30分 日・祝の翌日休み

サンヤサマの二十三夜塔

つくば市北条の観光情報ポータルサイト <http://www.tsukuba-hojo.jp>

## 城山

もとは多気山(たけやま)という。戦国時代に城が築かれて以来、城山とよばれる。現在は龍ヶ崎市正覚山正信寺の寺社林として管理されている。平安末期に北条を本拠とした多気氏の祖は平貞盛(これもとで、平安中期に平将門の乱を平定した平貞盛の弟、繁盛の子である。なお、貞盛の一族は、恩賞で得た三重県の領地で「伊勢平氏」となり、後世に平清盛が出る)。鹿島神社

宝安寺(ほうあんじ) 火事の多い北条の防火を祈願するために、静岡より火伏せの御利益がある「秋葉様」を迎え、この寺に安置する。曹洞宗。寺の前を通る道は「じゅちみち」とも呼ばれるが由来は不明。墓地の高台からは北条の街並みを一望できる。

毘沙門天種子碑(ひしゃもんでんしゆい) 鎌倉時代の石碑。仏教を護持する四天王の一尊であり、江戸時代には福徳財富の神として崇拝された。本碑は、毘沙門天の梵字を巧みに形象化し、字の上に宝塔を刻する。平沢石で作られ、端に割り跡も残る。大樹の下に観音堂と並んで立つ。

日向庵寺跡(ひやうあじあつ) 平安末期の阿弥陀堂跡。本堂を中心に東西に翼郭が延びる形で礎石が並び、宇治の平等院鳳凰堂と同様に全国でも珍しい。多気氏の拠点であったと推測される。

熊野神社(くまのじんじや) 参道にある鳥居は、寛永十三年(1636年)と刻まれ、年号の分かるものでは県内最古級である。修験道の神社として室町時代よりあったとされる。急な階段を登りきった拝殿の後ろには巨石があり、その上の宝塔は岩より彫りあげたもので信仰の深さを伺うことができる。拝殿から望む麓の風景もよい。

全宗寺(せんそうじ) 室町初期の応永二年(1395年)の創建とされ、修験道場として栄えた。真言宗の寺。鎌倉末期の不動明王三童子像の掛軸がある。全宗寺より南へ裏堀に続く道は「はつけいどう」とも呼ばれるが、由来は不明。

JAつくば市 筑波農産物直売所 9～18時営業 水曜日定休

筑波ふれあい市 月・金定休 10時～16時営業 (5～9月は17時)



ミズモンの馬頭尊

つくバス バス停 関東鉄道バス バス停 つくば市観光協会の家 トイレお借りできます

つくば市都市計画図を基に作成